

7-7 技術課題対応WG

1. WG 設置主旨

本 WG は、建設コンサルタントが抱える様々な技術課題・懸案事項を、各部会の境を越えて解決するために、常任理事会直下の WG として設立した。

2. 主な活動と今後の展開方針

活動の主体は、以下の SWG で行い、SWG 活動の連携を図るために、12月5日にWGを開催した。

(1) SWG 活動

a) CIM 対応 (加藤 SWG 長)

- ・ i-Construction 及び BIM/CIM 活用等、生産性向上を目的とした各種検討委員会 (ICT 施工、CIM ガイドライン、国際標準、実施体制、直轄事務所における活用促進等) において技術活動を実施し、協会内に情報を共有した。
- ・ CIM リクワイアメント対応：3D 設計モデルによる属性設定、数量集計機能の活用、維持管理性、施工の確実性等の検証試行等を実施し、関連委員会及びセミナー等にて情報発信した。
- ・ 今年度の実施状況を踏まえ、次年度に向けた課題と対応策としての要望等を整理した。(人材教育、モデリングに要する経費等部掛策定)
- ・ 今後も生産性向上に向けた取組を継続する。

b) 公益活動 (鈴木 SWG 長)

協会員の公益に資する活動を幅広く扱うことを目的として設置。活動項目は以下のとおり。

- ・ コンサルタント相互の技術支援制度の創設
- ・ 会員からの技術相談窓口の設置
- ・ 国総研、土研との分野別実務者レベルの意見交換会の開催
- ・ 本部、支部活動成果 (技術資料) の共有並びに発注者への配布

道路橋示方書に関する質問・回答を主に実施、国交省本省・国総研・土研の問合せ窓口としても機能、今後は横断的組織として各専門委員会と連携、技術課題の把握と解決に向け活動する。

c) 業務体系 (万名 SWG 長)

建設コンサルタントの事業領域のうち、社会資

本の建設や維持管理・更新事業における役割について、協会の基本スタンスを検討する。今年度は、橋梁修繕事業における具体的課題検討と設計者/施工者の連携方式について検討する。

- ・ 施工者 (橋建協・PC 建協) との共同検討
- ・ 設計者と施工者がそれぞれ連携する契約方式の選定に関する資料の作成
- ・ 中国支部との連携による設計者と施工者が連携する方式のケーススタディ

d) 改定道路橋示方書対応 (鈴木 SWG 長)

協会員が、速やかに改定道路橋示方書の内容を理解し、調査・設計業務に反映させるため、各支部と連携の下、必要となる技術資料の提供や講習会を開催する。活動項目は以下のとおり。

- ・ 講習会テキストの作成、講習会の企画と開催
- ・ 道路橋技術相談窓口との調整・連携、質問への回答
- ・ 改定道路橋示方書に実務への適用上の課題の把握と解決に向けた検討
- ・ ソフト開発会社との勉強会と新ソフト動作確認
 昨年は、設計計算例を作成し、講習会を全国 10 会場で実施した。なお、本 SWG は、平成 31 年 3 月までの時限組織であったが、改定道路橋示方書の理解・適用が十分ではないため、延長を予定。設計ソフトウェアを含む改定道路橋示方書の実務への適用上の課題についても検討予定である。

e) 自動運転 (藤井 SWG 長)

自動運転について、情報データベース構築と運営体制の整備、行政への提言、民間協働の促進等を目指して設置、以下の活動を実施した。

- ・ 情報収集と自動運転マトリクスの作成
- ・ 各技術委員会との関わりの検討
- ・ 出口戦略と具体的な成果イメージの共有

3. 次年度について

今後は、主に統括技術委員会として記載の活動を継続し、新たな技術課題が発生した段階で、適宜、必要に応じて対応を検討することとする。

(技術課題対応WG長 重永 智之)